

2023年度
事業報告

特定非営利活動法人 就労ネットうじ

みっくすはあつ（就労継続支援B型）/ゆめハウス（就労継続支援A型・B型）

2023年度事業報告と2024年度にむけて

はじめに

2024年1月1日に発生した能登半島地震において犠牲になられた方々にお悔やみを申し上げるとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。皆様の生活が一日も早く平穏に復することをお祈り申し上げます。

新型コロナウイルス感染症対策では、昨年5月より感染症法上の位置づけが5類に大きく変更されました。社会活動も一見回復しつつありますが、それに伴う影響と回復にはまだ時間もかかりそうです。合わせて社会情勢の不安から影響を受ける物価や資材の高騰への対応も依然続いており、事業所だけではなく、一人ひとりの生活全般を圧迫する事態につながっています。引き続き行政とも連携をとりながら、必要な支援策につなげていく事としています。

法人全体としての活動の幅も広がり個別的に必要な配慮を進めながら対応しています。

また工賃・賃金額の面からは、社会的な影響を受けての減少は抑えられ、新たな種目もスタートすることができました。半面受託業務の終了等の影響は顕著に現れました。

2024年度に向けて、新たな作業は変化を加えながら展開し、継続してきた種目の幅や単価そのものを上昇させるなど工夫していきます。

また作業以外の活動も相談工夫しながら実施してきました。

コロナ禍より留意し工夫を加えながら取り組んできた旅行も日帰り旅行のみでなく一泊旅行を実施もできたことはとても好評で思い出に残るいい時間となりました。

また、2024年4月より新報酬がはじまります。現状からA型B型ともにプラスの改定となる見込みです。しかし現行の加算方式の限界も感じており次期報酬改定に向けて検証を進め課題を整理しながら引き続き注視していく事としています。

合わせて就労選択支援が2026年10月から施行されます。まだ意見出しの段階ですが利用者本人の意に反した内容にならないように注視していきます。

私たちは共に生きるための社会制度の構築を実践から伝えていく事と、日々の取り組みから知恵を絞り前向きな変化と目の前の活きた実践を大切に、法人が理念とする「ともにある」のもと、活動を継続していきます。

よろしく願いいたします。

2023年度事業報告と2024年度にむけて

2023年度を振り返ると、新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類に移行する中、新しい生活様式を意識しながらも、多くの取り組みに試行して挑戦することができました。

啓発の意味合いもあるソーシャルワーカー養成にも、他の施設が縮小する中、積極的に9名を受け入れ、実習生・利用者・職員それぞれ刺激を交互に感じながら取り組みました。結果、相互コミュニケーション力、自分の思いを言語化して相互理解の向上、工賃獲得にも寄与しました。

日帰り旅行も助成金を活用して、作業以外の経験を通して社会とのつながりを感じることもできました。

作業場の環境整備として、助成金を活用した空間除菌清浄機能付きのエアコンを導入して一年を通じて安心して過ごせました。

地域の大学生によるボランティア演習、地元の高校での講義の機会をもらい、地域への発信を大切に、取り組めたことは良い経験になりました。

うじ・はんどめいどショップの売り上げも、観光客の増加や大河ドラマ、商店街でのコラボイベント等を活用して増加に転じました。

また継続して施設外就労や施設外支援の取り組みとして広野公民館清掃、山城北保健所清掃、公園清掃などにも注力して取り組みました。

エコボール事業では、ボールの受け取りや納品で選手・監督と利用者・職員の交流に取り組み、継続的なつながりの大切さを実感できました。

2024年度は、作業工賃の確保及び向上の為に、現在の作業内容、作業効率の見直し、また地域とのつながりを深めて新規作業の獲得についても推し進めていきます。

地域に見える形で作業場を飛び出し多様な働く姿を発信して、相互理解を深めて、みつくすはあつを知ってもらい、「ともにある」を目指して取り組みます。

かんしゃ工房（就労継続支援B型）

内容

2023年度は、つながりを通して地域との関係性の構築を目指しながら工賃の獲得また作業の継続と改善、新たな作業獲得に取り組んだ。

エコボール活動では硬式野球チームの監督の交代もあり、継続して預かることができなかったチームもあった為、修繕数は昨年度に比べ減少した。また京都で第6回エコボール全国大会が開催され、職員利用者ともに交流を通して更なる取り組みに向けて良い刺激を得る機会となった。

今年度新たな作業として、宇治市の優先調達推進法を活かした千羽鶴の折り作業やマタニティーストラップと企業チラシの袋詰め作業に取り組んだ。

また海外リユース活動（器器プロジェクト）にも取り組み、地域とつながることを目的に取り組んだ。事業所を知ってもらうことに活用できた。

作業実績

（工房内）

- ・エコボール納品数：5チーム取り組み/作業数合計787球
- ・（株）エーゲル：角材穴あけ作業数 1638個
- ・（株）智光（卸売業者）：受注作業 計13類の作業費 112,700円
- ・啓発物品：京都府障害者啓発週間 ブックマーク300個
- ・マタニティーストラップとチラシの封入作業：100個
- ・千羽鶴の折作業：700羽を宇治市に納品

（施設外での作業）

- ・出店販売：市役所・振興局・オープンカフェ・地域のお祭りでの販売活動
- ・ローソン清掃作業：除草作業・グリストラップ・ゴミ庫の清掃。
- ・マンション特別清掃・除草作業：特別清掃は年2回実施。除草作業は適宜。
- ・ポスティング：
毎月2回/1回2,500枚委託を受け小倉地域へポスティング。
個人の方から5,000枚配布（宇治市内）
- ・広野公民館清掃（定期）：毎月第一月曜日にワックスがけ・エアコンや蛍光灯の清掃、ポリッシャーなどを使用した定期清掃を実施。
- ・個人宅清掃：つながりや、チラシを見た方から個人での依頼を受け、清掃や除草作業などその依頼内容に合わせて実施。
- ・平盛デイサービスワックスがけ：デイサービス内のワックスがけを実施。

うじ・はんどめいどショップ（就労継続支援B型）

内容

2023年度はコロナ禍が和らいでイベント販売の再開により売り上げが戻り始めた。地域の常連のお客様や、宇治市役所・振興局・オープンカフェ販売でも売上確保につながった。改めて地域の方との繋がりが、お店としての役割、人々が求めている商品を提供する重要性を再認識する機会となった。

- ・ショップ利用者 5名（月～金：2～4名、土：1名）
- ・体験（利用者） 2名

作業実績

・店頭販売

新商品や、おススメ商品の販売、ソフトクリームや綿菓子の販売を行った。

・多様性のある働き方

利用者一人ひとりの「働きたい」の思いを大切に、日々の中で個別に取り組み実践につなげた。

- ・ショップ販売体験希望の利用者や、支援学校からの体験実習生の受け入れを実施。一緒に取り組む事で、良い刺激となり、お互いを認め合い助け合うことで、ともに働くことを実践できた。
- ・利用者デザインペーパーで包装紙、袋を作成しショップで使用開始したところ、お客様に好評だった。

売上平均

- ・はんどめいど商品（仕入れ商品） 57,786円/月平均
- ・つながり商品（地域の方の手作り商品） 36,723円/月平均
- ・作業所商品（他作業所の手作り商品） 50,767円/月平均
- ・自主製品 2,844円/月平均

売り上げ比較表2022年度・2023年度

2022年度	売上金額合計	2023年度	売上金額合計	売上増減
4月	192,770	4月	188,210	-4,560
5月	125,650	5月	216,450	90,800
6月	68,710	6月	367,040	298,330
7月	64,310	7月	195,980	131,670
8月	36,380	8月	191,520	155,140
9月	129,650	9月	138,249	8,599
10月	252,180	10月	442,913	190,733
11月	228,024	11月	376,250	148,226
12月	248,560	12月	180,680	-67,880
1月	56,692	1月	105,347	48,655
2月	101,330	2月	136,629	35,299
3月	143,190	3月	189,245	46,055
合計	1,647,446	合計	2,728,513	1,081,067

企業内実習 ホームケルン株式会社（就労継続支援B型）

内容

ホームケルン株式会社は社会環境を考え、石炭やコークスの代替燃料であるRPFを製造している会社である。

その企業内工場（2階の安全性が確保されたベルトコンベアー作業室）で、企業資源廃棄物(資源物)の仕分け作業（紙・ひも・ビニール袋・銅線・ねじ・鉄等）の一部を担った。

基本的な内容は企業の職員から指示をいただき、利用者への作業指導はみつくすはあつ職員が行い、現地までの送迎及び、仕分け作業を一緒に取り組んだ。

2023年度作業収入実績として、239日間稼働/478万円であった。

利用者

基本通所時間 8時00分～16時45分（移動時間を含む）

通所曜日 月・火・水・木・金（祝日は除く）

作業時間

9時00分～16時00分（ホームケルン企業内作業）

作業実績

- ・「施設外就労」として、安全な作業環境を確保する為に利用者同士で声の掛け合いを徹底しチームとして協力し、作業に取り組むことができた。
- ・チームとして取り組む利用者間の人間関係の変化についても、その都度ミーティングを行い、コミュニケーションを通して対応することができた。
- ・新規1名、復帰1名の利用者に加えて、利用者個人の就業日数を増やすことで、1日当たりの稼働人員4名から5名（職員を含む）を確保する事ができた。
- ・コロナは、感染症分類が5類に移行されたが、引き続き稼働を続けるにあたり、換気や密にならないように人との距離を確保、手指消毒の徹底、食事時の黙食等に取り組み、感染の予防に努めた。

啓発（就労継続支援 B 型）

内容

2023年度は5月から新型コロナウイルスが5類になったことで外に出る機会が増え、交流が活発になった年だった。

日々の取り組みを機関紙、たより、ブログなどで発信。また、清掃作業や出店販売など地域での働く姿を通し、地域の中で「ともにある」を発信し続けることができた。

国会請願署名・募金運動では、地域の事業所と一緒に署名・募金を集めることができた。

実績

- ・日々の取り組みで、機関誌や便りの発行、ホームページやブログなどでの情報発信を行った。
機関誌/年2回・たより/年5回・ブログ/毎月
- ・エコボール活動ではボールの受取りや納品時に野球部員や監督、指導者の方と交流を継続することで、相互理解を深める機会につなげることができた。
- ・地域の講師派遣では、城南菱創高校に計2回講演に行けた。
職員1名・利用者2名参加
- ・きょうされん利用者部会などリモートで参加、事業所紹介活動などを行った。
- ・国会請願署名・募金運動では、利用者・職員で内容について理解を深め、取り組んだ。

支援者実習

- ・実習生として9名の学生を迎える事ができ、実習生だけでなく利用者と職員にとっても貴重な学びの場となった。
(同志社大学、龍谷大学、京都医療福祉専門学校、大阪歯科大学)
- ・ボランティア演習や福祉体験（中学生の職場体験）などの取り組みも継続して実施した。

2023年度事業報告と2024年度にむけて

新型コロナウイルス感染の影響としては、社会活動が少しずつ回復し、活動の幅も広がりはじめ、日常での留意を続けながら状況を見て対応してきました。

しかし社会情勢から影響を受ける物価や資材の高騰への対応も依然続いており、一人ひとりの生活を圧迫する事態となっています。引き続き行政を含め必要な団体と連携をとりながら、必要な相談や支援策につなげていく事としています。

ゆめハウスとしては活動の幅を広げながら個別的な配慮と合わせて対応してきました。

また工賃・賃金額の面からは、新たな種目をスタートする半面、受託業務の終了等の影響があり、時間給は維持できたものの昨年度は支給できた利用者ボーナスを捻出することができずその影響が顕著に現れました。

全体としてはこのような一年間でありましたが、2024年度も新たな作業は検証しながら展開しつつ、継続してきた種目の幅や単価そのものを上昇させるなど工夫し「多様な働き方を目指す」実践を続けていきます。

B型事業では、2022年度末で京都市からの除草等管理業務の打ち切りから飲食部門の枠を広げてきました。具体的に宇治市役所8階での「かむ come カフェ」業務の実施や市役所内のデリバリー業務、製菓事業の拡大、また露店許可を活用した販売業務なども広げてきました。2024年度に向けて課題を整理しながらつなげていきます。また地域企業とのつながりも回復してきており新たな工夫や相談も始まってきていました。

A型事業では、2021年度から運用している独自の業務評価基準を更新しながら進めてきました。

運用で留意する事は、個別的に「できる・できない」の作業遂行能力ではなく、チームでの働きや挨拶など、働く姿勢に着目した基準としています。定期的なモニタリングを介しながら日常的にやり取りを進めています。効果としても徐々に表れはじめ、何より本人自身が自己評価を通して内発的に変化していく姿を感じられる事が嬉しいです。課題としては、定員10人規模を現員4名で運用していることがあげられます。

総評としましては、一年間様々な変化や制限が加わる中、事業所らしさを活かし制限のみではなく、できる事を相談し、そこに工夫を加えて変化させてきました。

具体的な取り組みとして印象に残るのは、コロナ禍より留意し工夫しながら実施してきた少人数での日帰り旅行や様々な企画です。2023年度は念願の一泊旅行を計画し2年ぶりに実施できたことです。実施後もしばらくは共有した会話が続けているのがとても印象的でした。

私たちは共に生きるための社会制度の構築や環境・風土を実践を通し伝えていくため、知恵を絞り日々の取り組みを検証しながら前向きな変化へとつなげていきます。

そして目の前の活きた実践を大切に、法人が理念とする「ともにある」のもと、活動を続けていきます。

くりーんねっと（就労継続支援A型）

全体

作業内容の変化にも対応しながら、日々の姿勢から作業の質まで向上することができました。

月1回のミーティングの場を活用し、日々の中での問題点・改善点など自分たちで話し合うことを大切にし、チーム作りや働く姿勢等個人のスキルアップ、積極性や自主性、意欲的な働きを身につけるように心がけました。B型から実習の受け入れもあり、A型として作業を教えること、見本となる事を意識しながら取り組みを進めてきました。また、チームワーク向上のためA型利用者でミーティングを活用し、行き先なども含めて計画から立て余暇活動ができました。

独自の評価表（特別清掃への参加の有無等）をもとにモニタリングで自己の働きを振り返り、各々がA型としての意識を持って作業に取り組む姿勢が見られました。以前から掲げている「賃金の向上を目指す」という目標に則りさらなるステップアップを図ることに繋がりました。週20時間以上の勤務は継続し、新規業務へも積極的に参加し、雇用者としての自覚を持って日々の業務に取り組むことを目指し、進めています。

今後も継続課題として最低賃金のアップに伴った賃金支払いのバランスの確保が挙げられます。変動していく最低賃金の額に適応した賃金支払いに近づけていく事とあわせ、個別支援計画やモニタリングにおける本人との相談を通し、「多様な働き方」を継続し目指していきます。また、独自の評価基準に関して、1年を通してある程度感覚は掴めた為、業務内容の変化、週間の動き、ゆめハウス全体の動きに合わせて、評価内容を少しずつ変更していくことも検討しています。

利用者

A型利用者数 4名（2024.3.31現在）

B型利用者のA実習（12名）（通常清掃、特別清掃含む）

特別清掃時、専門機器を扱う利用者の増加。

基本通所時間 10時～16時

労働時間 週20時間以上30時間未満

通所人数 1日 4名

作業場所

- ・産業振興センター 全館清掃（日常清掃・特別清掃）
- ・宇治公園橘島公共便所清掃
- ・東宇治地域福祉センター（日常清掃・特別清掃）
- ・円蔵院
- ・サクラハイツ
- ・ライオンズマンション宇治第2（日常清掃・特別清掃）
- ・伊勢田地区公園除草作業（5ヶ所）
- ・小倉明星園デイサービスセンター（日常清掃・特別清掃）
- ・大山医院（日常清掃・特別清掃）
- ・広野公社デイサービスセンター（特別清掃）
- ・その他 特別清掃依頼に対応（年間1～2回）
- ・京都府宇治総合庁舎（特別清掃）
- ・宇治浄水場
- ・天ヶ瀬苑
- ・Coco 壺番屋

ゆめハウス（就労継続支援B型）

2023年5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、3年余り続いたコロナ禍がようやく収束した事によりゆめハウスもほぼ日常を取り戻せたように思います。皆勤手当も定着してきて、利用者の意識も変わってきました。

2年間取り組んだ京都市市営住宅（向島5街区、淀際目）の除草作業は残念ながら更新する事が叶わず3月末で終了となりました。新たな取り組みとして、4月17日に宇治市役所8階のコミュニティスペースに「かむ come カフェ」をOPENしました。月・火・水の3日間は就労ネットうじで営業、木・金は「遊々」さんが営業と、2団体がひとつの喫茶スペースを交代で営業しています。様々な課題が出てきますが、その都度話し合いながら地域の方、市役所職員の方など色々な方に利用して頂き地域の開けた空間になるように日々取り組んでいます。また、海外リユースが地域に浸透してきた中、新たにトイコタという企業と連携し「器器プロジェクト」という地域からもう少し対象を広げた取り組みも始動しました。工房の方では、「さをり織り体験」をイベント時に試行的に開きました。物を売るだけではなく、実際に体験して自分で作ったものを持ち帰るといった体験型で集客を図れたと思っています。

余暇活動では数年ぶりに宿泊旅行を実施する事ができました。福井県のあわら温泉に宿泊し、いつもよりは少し夜更かしをし、東尋坊クルーズで押し迫ってくるような岸壁を下から眺めるという貴重な体験をしました。日帰り旅行組は淡路島で新鮮な海鮮丼を食べ、渦潮クルーズで自然の力が作り上げる神秘的な光景を体感する事ができました。

ゆめ会議での取り組みとしては、秋のレクリエーションでアクトパルでの飯ごう炊さん、みどり農園の味覚狩り、信楽で陶芸体験を実施しました。どれも今まで経験した事がない利用者もいて有意義な時間となったようです。どの余暇活動もただ楽しむだけではなく、何か目的をもって取り組めるようなものに今後もしていきたいと思っています。

施設外実習ではCoco壺番屋で開店の準備、厨房作業など引き続き体験を重ねることができました。スタッフの一員として当てになる存在になっており、本人の自信にも繋がっているようです。そうした彼女の姿を見て、やってみたいという意欲を示している利用者も出てきており、良い効果に繋がっていると思います。また、2名の利用者が総合庁舎の早朝の清掃実習を行いました。朝が早いことと、館内が広く時間通りに仕上げられるかなど不安もあったようですが、1年間通してやりきる事が出来ました。工賃アップにも繋がり、本人のやる気にもなったようです。

2024年度は昨年度に始まった取り組みをしっかりと定着させ、マンネリ化しないよう常に新しい事を取り入れながら進めていきたいと思っています。

B型利用者数 24名(2024.3.31現在)

A型実習体験者数 12名(通常清掃、特別清掃含む)

施設外支援 3名

基本通所時間 10時~16時

通所人数 (月~金)14~17名/日 (土)3名/日

作業内容

- ・ゆめカフェ(毎週金曜日)
- ・かむ come カフェ(毎週月・火・水曜日)
- ・工房
- ・出張喫茶、出店販売 *出店販売年間 109回
- ・通常清掃 3ヶ所(服部医院、宇治市役所除草、米坂墓地)
- ・【A実習】特別清掃 1か所(西宇治公園プール清掃)
- ・リサイクル(古紙、プルトップの回収、販売・海外リユース〈器器プロジェクト〉)
- ・製菓
- ・企業実習(Coco 壺番屋、総合庁舎)

エコボール（硬式野球ボールの修繕）

協力学校・チーム

【新規 3チーム】

- ・大阪産業大学
- ・奈良県立香芝高等学校
- ・高槻リトルリーグ
- ・岐阜中濃ボーイズ
- ・寝屋川中央リトルシニア
- ・高槻オールブラックス
- ・枚方ボーイズ
- ・夢道場ワールドベースボールアカデミー
- ・大正白陵高等学校
- ・大阪千里青雲高等学校
- ・洛南高等学校
- ・茨木ナニワボーイズ

年間修繕数

2023年1月～2023年12月

1130球

評価

2023年度は新規で3チームとの繋がりを持つことができました。定期的にボールを預けて頂いているのは3～4チームほどになります。どうしても監督が代わられたり、クラブチームでは卒団されたりと人の入れ替わりによって連絡が途絶えてしまう事が多いので、こちらからこまめに連絡を取り合って繋がりが切れないようにしていきたいと思えます。

2023年度の大きなこととしては、エコボール事業に会費制を取り入れました。この会費を活用してエコボールのホームページを作り、情報の集約や、連携事業所の情報などを広く発信していければと考えています。

3月3日には第6回エコボール全国集会を京都で開催し、全国から60名ほど集まりました。第2部として懇親会も実施する事ができ、事業所間の情報共有がたくさんなされました。ゆめハウスからは2名の利用者が参加し、フォーマルな雰囲気味わって頂けたのではないかと思います。

前年度から引き続き、全国の他事業所からはたくさんの問い合わせがあります。その都度、見学に来て頂き、ゆめハウスの利用者さんと一緒に作業をしてもらうことで実際に作業が可能かどうか判断してもらっています。エコボール事業が年々全国に広まっていくにつれ、より事業所間で連携をとり、本来の目的や効果がぶれないように共有し合っていきたいと思っています。

工 房（自主製品）

さをり製品

- ・ひざ掛け（京都府敬老祝い品）45枚
- ・染め和紙織り（念珠入れ・通帳入れ・名刺入れ・ティッシュケース・コースター）
（コースター）
- ・発注元 いたるセンター（ほっとはあとセンターより）1050枚（450枚・600枚）
- ・宇治市人権啓発物品 200枚
- ・宇治市障害者街頭啓発物品 38枚
- ・かむ come カフェオープン記念品 80枚

*ぶらり嵐山、ぶらり三条、うじ・はんどめいどショップ、各種出店等で販売

刺し子製品

- （ふきん）
 - ・中山東町内会 100枚
 - ・伊勢田地区民生児童委員協議会 136枚
 - （ハンカチ）年末お礼品・干支（辰）
 - ・ゆめハウス 75枚
 - ・キョーシンオート 50枚
 - ・おもてなし処阿吽 20枚
 - （手ぬぐい）干支（辰）
 - ・天ヶ瀬苑 40枚
- うじ・はんどめいどショップ、各種出店で販売

染め紙製品

- （ミニうちわ）
- ・京都府山城広域振興局より 2000枚

その他

- ・手編み製品（座布団・アクリルたわし・ペットボトルカバー）

評価

毎年ほっとはあとセンターより定期的に受注して頂いていたさをり織りコースターが年度後半はことごとく審査から落ちてしまい、予定していた売り上げに繋げることができませんでした。サイズの見直しや、他の製品なども検討していきたいと思っております。

新たな取り組みとして、「さをり織り体験」を試行的に実施しました。子どもから大人までとても楽しんで頂け、自ら作ったものを持ち帰れるということにとっても喜ばれていました。物を売るだけではない新しい集客方法を試していきたいと思っております。

ゆめカフェ

実施曜日 毎週金曜日 (月4～5回)

実施時間 11:30～14:00 (ラストオーダー13:30)

利用者 6名ほど

- ・1日およそ30食程度の食数が出ます。
- ・2012年から始めて10年目になります。

評価

物価高騰が続く中、650円でランチを提供しています。仕入れの仕方や材料など試行錯誤し、質を落とさず量も満足して頂けるよう工夫しています。

仕入れ、前日の仕込みに利用者も携わり、食材の選び方や調理道具の使い方などを学び、料理に関する経験を重ねています。

また施設外実習や、利用者自身の生活の自立に向け、接客や掃除、準備など職員がつきながら教えられる練習の場としても有効に活用できています。

日々の衛生管理チェックでは備品の不備に早く気づくことができるようになってきていることと、利用者自身が身だしなみを気かけられるようになってきました。引き続き、お客様に安全な食事を提供できるように努めていきたいと思えます。

・2021年6月～HACCP導入運用が完全義務化となり、ゆめハウスでも衛生管理表を作成し毎日記録チェックをし、記入作成も習慣化されてきています。

また、毎年新しい職員には「食品衛生責任者実務講習会」を受講してもらい、食品衛生についての知識を深めて頂いています。

かむ come カフェ

実施曜日 毎週 月・火・水曜日

実施時間 11:00~14:00

実施場所 宇治市役所8階 コミュニティスペース

利用者 2名ほど

評価

2023年4月17日に宇治市役所8階コミュニティスペースにOPENしました。開店当初は、職員・利用者とも初めての事ばかりで戸惑う事もたくさんありましたが、試行錯誤を繰り返しながら進めてきました。仕事内容は厨房内とホールでは全く異なりますが、利用者も1年が経過する頃にはどちらの作業も定着し自分で考えて動けるようになってきました。

売り上げについては下記にあるとおり、季節や天気などにより来客数にも影響があり、毎月季節に合ったイベントを企画するなど工夫をしました。

宇治市役所8階コミュニティスペースの運営にあたっては、障害福祉課、長寿生きがい課、職員厚生課、遊々と連携して取り組んでいます。行政の中の横の繋がりや、障害と高齢の違いなど課題はたくさんありますが、その都度話し合いながらオープンなコミュニティスペースになるように取り組んでいきたいと思っています。

また、利用者にとっても今後の日常生活や実習に活かせる経験を積む場所として活用していきたいと思っています。

	営業日	来店者数	月/売上金額(円)	日/平均(円)	備考
2023/4月	6	182	65,950	10,992	4/17OPEN
5月	11	315	118,650	10,786	OPEN イベント
6月	13	315	117,100	9,008	雨の日イベント
7月	14	345	117,200	8,371	梅ジュース
8月	14	309	104,405	7,458	千本引き
9月	11	268	96,550	8,777	紫蘇ジュース フロート
10月	15	309	105,110	7,007	ハロウィン
11月	17	348	124,350	7,315	
12月	13	234	82,850	6,373	クリスマス
2024/1月	12	265	94,650	7,888	おみくじ
2月	13	313	107,750	8,288	バレンタイン
3月	13	284	104,000	8,000	ホワイトデー
合計	152	3,487	1,238,565	8,148	

製菓・出張喫茶(一部物品を含む)

- ・心身障害者福祉センター（京都府社会福祉事業団）
（新型コロナウイルスの為実施無し）2024年4月より再開予定
- ・介護教室(宇治市小倉明星園)2022年4月より月1回（第2木曜日）
年間12回
- ・宇治市役所 販売年間17回
- ・オープンカフェ 年間10回
- ・振興局 6回
- ・生涯学習センター販売 土 年間42回
- ・事業所や個人様からの依頼によりお菓子の委託販売
- ・その他出店 縁庵まつり、宇治市植物公園販売、西小倉おさんぽラリー
うじ・はんどめいどフェア（イズミヤ六地蔵・アルプラザ宇治東）、県まつり
夏休み子どもわくわくフェア、久御山大作戦、折居台こども夏まつり
あさぎりフェスタ、善法人権フェスタ、わんさかフェスタ、紅葉フェスタ
宇治ボランティアフェスティバル、深草100円商店街、小倉小福祉バザー
ともいきフェスティバル、はにかむカフェ、同志社こむぎこ企画、
ほっとはあとマルシェ、身体障害者福祉協議会の集い、まなびんぐフェスタ
健康長寿フェス、ひゅうまんフェスタ

評価

2023年度は新型コロナウイルス感染症も5類に移行したことで、地域のイベントや大学のイベントに積極的に参加することができました。色々な場所で出店させて頂いたことにより、ゆめハウスのお菓子もたくさんの方に知って頂き、後日注文を頂けることもありました。またそこでの出会いと繋がりで違うお仕事を頂くこともできました。

製菓作業では携わる利用者が増え、また販売や宇治市から新規の受注などもあり、製菓作業の回数が増えてきました。作業に取り組むことも増え、個々の得手不得手な部分を補い合いながら、やりがいを感じ仕事として意識することができるようになってきています。

海外リユース（器器プロジェクト）

連携団体

宇治市内の8事業所

評価

海外リユース事業とは、各ご家庭に眠っている陶器を中心とした食器を回収し、海外に販売していく取り組みです。きっかけは宇治市役所まち美化推進課の海外リユース事業をもとにしています。回収業者を通じて得た利益は利用者工賃に還元しています。

目的として、工賃アップにつなげる事と合わせて地域の課題解決につながる取り組みから新たな仕組みづくりにつなげていく事を目的としています。

今後は「器器プロジェクト」と称し、トータルプロデュースとしてトヨタと連携しながら展開していく予定です。現在試行的にネット販売も進めています。

回	搬出日	全体搬出量 (kg)	全体金額(円)	内ゆめハウス (円)
1	2022/3/29	1,459	65,655	2,745
2	2022/6/30	3,188	147,420	32,600
3	2022/8/31	1,990	90,495	0
4	2022/10/5	1,997	90,565	2,520
5	2022/11/14	1,973	86,100	5,925
6	2023/1/19	1,982	88,765	0
7	2023/5/12	1,993	89,330	4,440
8	2023/7/11	2,053	94,930	2,250
9	2023/9/7	1,982	89,190	9,450
10	2023/9/25	1,450	65,300	10,865
11	2023/11/16	2,062	96,765	9,795
12	2023/12/26	1,993	89,965	19,560
13	2024/1/26	1,614	71,390	14,810
14	2024/3/21	1,993	88,940	20,875
合計		27,729	1,254,810	135,835

* 2023年度実績（7～14合計） ・ 搬出8回 ・ 搬出量 15,140kg ・ 658,810円